古墳文化から考える水戸周辺地域
ー水戸市周辺の古墳を訪ねてー

水戸市立常磐小学校
６年１組　菅谷 昂大

目次

1.研究の動機 ・・・ 1

2.研究の進め方 ・・・ 1

3.研究した内容 ・・・ 2

(1)田中裕教授インタビュー結果 ・・・ 2

(2)水戸周辺地域の古墳を訪ねた結果 ・・・ 5

①愛宕山古墳 ・・・ 5

②牛伏古墳群 ・・・ 6

③虎塚古墳 ・・・ 7

④磯浜古墳群 ・・・ 8

4.研究のまとめ ・・・ 8

1. 研究の動機

ぼくが通った愛宕幼稚園(水戸市愛宕町)のすぐ裏に小さな丘がある。園児のころ、天気のいい日にはその丘に登ったり周りの林で虫やどんぐりをとったりして遊んでいた。

今年小学6年生になって、歴史の勉強で古墳について学んだ。ちょうどそのころ、大仙陵古墳などの百舌鳥・古市古墳群が世界文化い産として登録されることがニュースで流れていたので、古墳について興味を持った。それを父に話したら、「実は幼稚園の裏にある小さな丘は愛宕山古墳だよ」と教えてくれた。幼稚園の時に遊んでいた場所が古墳だったことにおどろき、もう少しくわしく調べてみたいと思った。そこで夏休みの郷土研究として行うことにした。古墳といっても、ぼくの目からはふつうの山や丘と区別がつかない。なぜこんなに大きいのか、誰がまいそうされているのか、水戸周辺には他にも古墳があるのか、古墳が作られた当時の水戸はどんな場所だったのか。いろいろな疑問がわいてきた。

2. 研究の進め方

(1) 田中裕教授(茨城大学考古学研究室)にインタビュー

まず、水戸周辺の古墳についてくわしい人を探すことにした。父といっしょにインターネットで調べたら、水戸のとなり城里町の徳化原古墳の発くつ調査に関する記事を見つけた(茨城新聞クロスアイ)。その記事によると茨城大学の考古学研究室(田中裕教授)が古墳調査を進めていることが分かった。父に手伝ってもらいながら田中先生に連らくをして、水戸周辺の古墳について質問をしたいことを伝えてみたら田中先生は引き受けてくれた。そして7月26日に研究室でインタビューする約束をした。

(2) 水戸周辺地域の古墳を訪ねる

田中先生に、水戸市周辺で見るべき古墳やその見方について教えて

もらったので、その古墳に家族といっしょに行くことにした。そこで分かったことや感じたことをメモしたり、写真をとったり、パンフレットや資料をもらったりした。

訪ねたのは、愛宕山古墳、牛伏古墳群(くれふしの里古墳公園)、虎塚古墳、磯浜古墳群。

3. 研究した内容

(1) 田中裕教授(茨城大学考古学研究室)インタビュー結果

7月26日、父といっしょに茨城大学考古学研究室の田中教授を訪ねた。先生は水戸周辺の古墳のことや見方についてやさしく教えてくれた。これまでに採集したはにわの破片などもさわらせてくれた(写真1、2)。

先生に質問した内容と教えてもらったことを下にまとめていく。

写真1、田中先生とぼく

写真2、はにわの破片をさわった

質問1. 愛宕山古墳には誰がまいそうされているのですか?

那珂国造とされているが具体的な人物は分からないらしい。エジプトのピラミッドにはまいそうされた王の名前が墓自体に記されているが、日本では墓に記されていないので、風土記などの記録から推定しているようだ。

日本の古墳は「個人をまいそうしているというのでなく「一方矣」をまいそう

したものらしい。そのため、エジプトのピラミッドのような王「個人」ではなく、その「一族・一家」の墓と見なくてはいけない。今でも「○○家の墓」や「○○家先祖代々の墓」というように、日本のお墓の文化に受けつがれていると考えられるそうだ。

質問2。愛宕古墳を作るのに、どれくらいの期間や人数がかかったのですか?

大仙陵古墳(仁徳天皇陵)については、『季刊大林』で土の体積や一日で運べる土の量などをもとに調査・試算した報告がされているが、一つ一つの古墳個別のものは計算されてはいない。ただ、測量などにより盛土の量が分かれば、そこから計算し推定はできるらしい。

質問3. 水戸周辺に古墳はたくさんあるのですか?

水戸周辺は古墳が多い地域で、特に内原のくれふしの里古墳公園周辺はとても多く、大小合わせて200基ほどあるみたいだ。古墳時代の前・中・終末期すべての時期の古墳があるため、この周辺が当時としては豪族・権力者の拠点だったようだ。

愛宕山古墳は中期のもので、那珂川(船)を利用した水上交通の要所としてここに権力を示すために作られたらしい。中期になると人力だけでなく馬を利用した物流手段も入ってきたため、船と馬をつなぐ交通の拠点として、この周辺が要所となったのだろうとのこと。すぐ近くの台渡里には昔の役所あとがあり、そこが陸上交通の要所でもあったことからもこの地域が重要であったらしい。

質問4. 水戸周辺で見るべき古墳はどこですか?

- ひたちなか市の虎塚古墳:石室の彩色壁画が残っている。
- 大洗の磯浜古墳群:常陸鏡塚古墳(前方後円墳:徳川斉昭の時代に海防陣屋が作られた)や車塚古墳(ふき石をもつ円墳)がある。
- 石岡の舟塚山古墳:茨城県内最大で、愛宕山古墳と同時期のものなので比較すると面白い。

質問5. 古墳はなぜこんなに大きくする必要があるのですか？

大きさは実力・権力を見せるためであり、一般の人との格差を示すために大きくなったらしい。地域のちつじょを守るためにも必要な(分かりやすい)もので、古墳が作られた時期によって大きさにちがいがあるらしい(中期には400m超の巨大なものも作られた)。

質問6. 古墳の形(円墳、方墳、前方後円墳)には意味があるのですか？

形は一族の身分(血筋)を示し、前方後円墳が一番身分が高いらしい。日本の古墳は墳丘のみだが、エジプトのピラミッドなどは周りに神殿やスフィンクスなどがセットとなって作られているらしい。

質問7. 他の形、例えば三角形など、多角形の古墳はありますか？

数は少ないが、双円墳、上円下方墳、多角形墳(八角墳)などがあるらしい。八角墳は天皇の特別な墓として大化の改新以こうに作られたもので、例えば、斉明天皇、天智天皇、文武天皇などがそれにあたる。その後、聖武天皇以こうは山へうめられるようになった。聖徳太子や大化の改新のころから日本の権力が大きく変化し、古墳の意味も変化した。それは身分ちつじょが変化したことを示していて、それまで「一族」に与えられていた身分が個人に与えられるようになったことが大きいのではないかとのこと(例えば冠位十二階では冠や衣装で身分を表している)。そのため、古墳で一族の身分や権力を示す必要がなくなり、古墳の文化が無くなったのではないかということだ。

質問8. 古墳を見るときのポイントはどこですか？

- 実際に現地へ行って見ること
- 可能ならば墳丘に登ること
- 前方部と後円部を見分けること
- 前方部の高さを見ること(低い場合は古い時期のもの)

・前方部の広がりを見ること（広がっている場合は新しい時期のもの）
・足元をよく見ること（はにわの破片が落ちている場合がある。もし拾ったら必ず報告する）
・地図などで墳丘の形を比べること（同じ時期のもの/いろいろな時期のもの）

（2）水戸周辺地域の古墳を訪ねた結果

田中先生に教えてもらった情報や、アドバイスをたよりに、愛宕山古墳、牛伏古墳群、虎塚古墳、磯浜古墳群に行った。

① 愛宕山古墳（水戸市愛宕町：8月6日見学）

県内3位の大きさで全長が136mの前方後円墳（写真3）。幼稚園の時には毎日のように行っていたが久しぶりに行って登ってみたら、頂上にある愛宕神社への階段が急で（写真4）、上から見たり、周りから見ると、確かに前方後円墳の形をしていることが分かった。

前方部の方が少し低いので（写真5）、古い時期のものかなと思った。とても大きい前方後円墳なので、この場所をおさめた人は大きな力を持っていただろう。

写真3、田中先生からもらった測量図

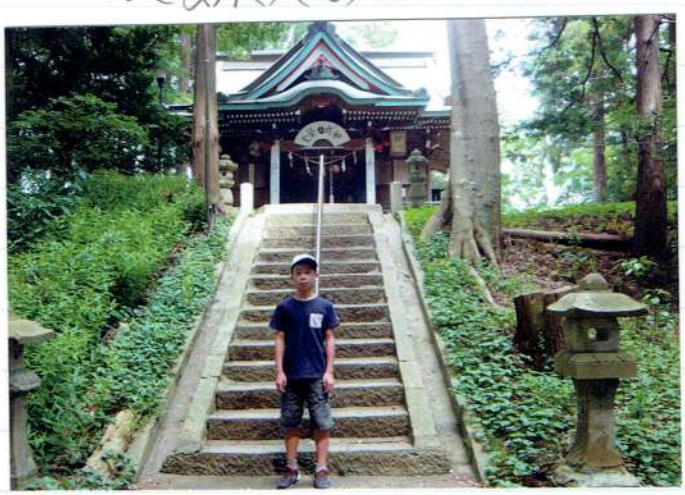

写真4。頂上にある愛宕神社

写真5。後円部から前方部方向

② 牛伏古墳群（くれふしの里古墳公園）（水戸市牛伏町：8月7日見学）

前方後円墳と円墳がたくさんあった（写真6）。古墳は大きいものだと思っていたけれど、ちょっと盛り上がった場所も古墳だと知っておどろいた（写真7）。多くの古墳があるということは、ここには権力を持った人がたくさんいたのだと思った。入り口近くにある古墳は復元されていて、そこには円とうはにわがたくさん置かれていた（写真8）。そのため、遠くから見てもすぐに前方後円墳だと分かった。作られた直後はこのように見えていたのかなと思った。

後円部より前方部の方が低いので古い時期のものだと思う（写真9）。

写真6、前方部下から後円部方向

写真7、小さな円墳

写真8、前方後円墳上の円とうはにわ

写真9、後円部から前方部方向

③ 虎塚古墳（ひたちなか市中根：8月14日見学）

全長56.5m、高さ5mの簡単に登れる大きさの前方後円墳(写真10)、前方部と後円部が同じくらいの高さなので、新しい(後期)のものかなと思った。後円部には石室への入り口があった(写真11)。石室は公開されていなかったが、すぐ横にある埋蔵文化財センターには石室の複製があった(写真12)。その内部を見て、壁画がすべて赤色だったことに興味をもった。資料によると、その赤色は「ベンガラ」といわれる天然の赤色顔料で縄文時代から使われているものらしい。大昔から使われていたことを知ってとてもびっくりした。壁画の文様にはそれぞれ意味(武器、へびの目、太陽、月、かざりなど)があると推測されているらしい。

虎塚古墳の近くには、「十五郎穴」という横穴墓群もあり(写真13)、当時はこの地域がまいそうの地であったのではないかとセンターの人が教えてくれた。

写真10、後円部下から前方部方向

写真11、後円部の石室への入り口

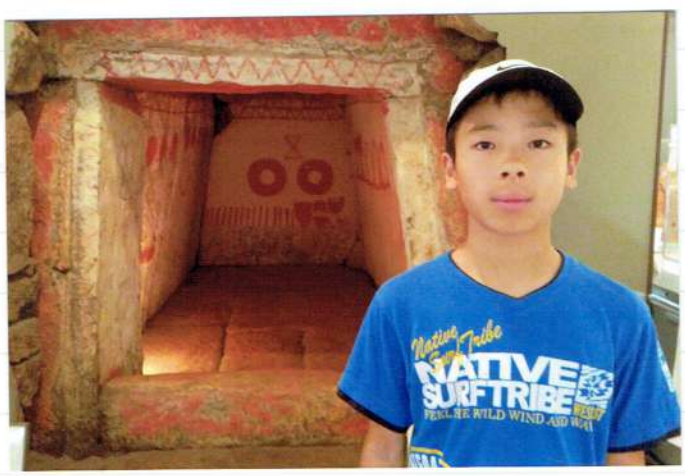

写真12、石室の複製

写真13、十五郎穴

④磯浜古墳群(東茨城郡大洗町:8月15日見学)

坂を登った少し高い場所に、車塚古墳、日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳、姫塚古墳、坊主山古墳があった。解説板があったのは車塚古墳(写真14)と日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳(写真15)で、姫塚古墳は小さな丘のみ、坊主山古墳は通れる道がなくて近くで見ることができなかった。車塚古墳もさくで囲まれていて入ることはできなかったが、大きな円墳であることは見て分かった。

日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳は、もっと坂を登った見晴らしのよい場所にあった(ここには徳川斉昭の時代に海防陣屋が作られていたらしい)。これだけ高い場所に古墳群があるということは、作る時や材料を運ぶ時にとても大変だろうから、交通に関する権力を持った人がここにたくさんいたのだろうと思った。

写真14、車塚古墳

写真15、日下ヶ塚古墳

4.研究のまとめ

田中教授から古墳の特ちょうや見方を教えてもらい、実際に周辺の古墳を見学してとてもおもしろかった。どの古墳もよく見ると、人が土を盛って作ったものなんだと分かった。今回訪ねた古墳は前方後円墳が多く、円墳も少しあったが方墳はなかった。このことから、水戸周辺には古墳時代、身分の高い大きな権力を持った人が住んでいたのだと思う。陸上交通の要所であり、那珂川や大洗など水上交通の要所でもあったことがなんとなく分かった。水戸周辺は重要な場所だったにちがいない。

今後は舟塚山古墳(石岡市)や、世界遺産の大仙陵古墳(大阪府堺市)などにも行って見学してみたいと思った。